

光イメージング若手の会「光塾」の背景と理念について

< 背景 >

我々総括塾員4名（樺山、北村、平野、藤井）の出会いは5年前（2004年）にさかのぼります。当時、ポスドク・大学院生になりたてホヤホヤであった我々は、縁あって阪大・北大が共催し、年2回行われる「細胞生物学ワークショップ（以下、WS。主催：原口徳子先生、平岡泰先生、金城政孝先生、永井健治先生）」に参加しました。WSの詳細はホームページ（<http://www-karc.nict.go.jp/w131103/CellMagic/index.html>）をご覧くださいと、ここはまさに顕微鏡“虎の穴”。一週間、顕微鏡のイロハから最新の応用技術までを学び、熱く深い議論が行われました。そこで我々は一つの結論に達します。

「生物系の研究において普段から顕微鏡を使っていたとしても、我々はあまりに顕微鏡のことを知らなさ過ぎる」

と。顕微鏡は生命現象の解明にとって非常に有用なツールで、各研究室で半ば当たり前のように使われているにも関わらず、です。我々総括塾員はWSの二期生でしたが、講師の先生からは「二期生のレベルは最低だったなあ」と今でも冗談まじりに言われています。当人たちも分かっていないという自覚があったからこそ、当時から質問と議論だけは非常に活発で、「もっと顕微鏡のことを勉強しなければ！」と、各々の研究室に戻ってからも強く感じていたのです。

ところが生物系のラボに所属していると、近くに顕微鏡のプロをおいそれと見つけることは困難です。そこで我々は、独学で勉強しつつ、機会があれば支部会と呼ばれる集まり（略：飲み会）に出かけていって情報交換をすることで日進月歩の日々を重ねてきました。このような過程で、WSで得た“人と人とのつながり（＝人的交流）”の大切さを実感し、顕微鏡のことを一層深く、広く学ぶ契機としてきました。

< 研究交流会立ち上げのきっかけ >

年月が過ぎ、そんな我々もティーチングアシスタントとしてWSに再度参加させて頂く中で、

「生物系の若手研究者には、あの頃の我々のようにイメージングに対する不安や迷いを持っている人が少なくないのではないか」

と感じるようになりました。

2008年秋の、とある支部会でこの話題に話が及んだ際、「WSで培ってきたつながりのおかげで研究が進んだのに、このような場（注釈：支部会のような意見交換できる場）が少

光イメージング若手の会「光塾」の背景と理念について

なくて残念」、「研究室から出て、色んな人と話をしているとリラックスできていい気分転換になる」、「学会だとイメージングのコツみたいなことが聞きにくい」などの意見を聞き、

「それなら我々で、イメージングのことなら何でも聞けて、何でも議論できる研究交流の場を作ろう！」

と一念発起しました。すなわち、“生命現象のイメージングに興味を持っている若手研究者のために交流の場を設け、熱く議論を交わしていくことで、イメージングに対する不安や迷いが解消され、各々の研究の進展につなげることを目指す研究交流の場『光塾』を立ち上げよう。これは人的交流の大切さを実感してきた総括塾員にとっても、交流を広げ・深めるまたとないチャンスでした。

< 『光塾』の理念 >

これまでに学会の懇親会やラボ内外の先輩・後輩とのディスカッションなど、形式ばった発表の場以外のところで研究のヒントを掴んだことがある方は結構多いのではないのでしょうか。『光塾』では、そうした場を積極的に提供することで、イメージングに興味を持つ若手研究者が集まって人的・技術的に交流し、それぞれの研究人生をより豊かなものにするためのきっかけにしていただければと考えています。そのため、以下の三点を特に重要視しています。

1. 生の情報の交換

洗練された研究発表だけではなく、苦労話や失敗談、研究の悩みや不安な点など装飾のない生の情報をざっくばらんに議論することで、お互いの研究を刺激し合い人的交流を深めることのできる場を作ること。

2. 生命現象のイメージングを共通の目的とする。

興味深い生命現象をイメージングしたいがどうしたらよいかと悩んでいる人、スペシャルなイメージング技術を持っているがどんな生命現象に応用できるか悩んでいる人など、生物学・光学の分野に限らず広く人材を募ること。

3. すべての参加者が発信者であること

参加者が単に受動的に情報収集するのではなく、積極的に議論に参加して情報発信・情報交換する場を目指すこと。特に研究成果や知識、経験の少ない若手研究者(ポスドク・大学院生)であっても自発的・積極的に発表や議論に参加することができる集まりであること。

光イメージング若手の会「光塾」の背景と理念について

以上の点をまとめ、ここに光塾の理念を提唱します。

『イメージング技術を用いた生命現象の解明に興味をもつ若手研究者が、相互に研究内容や実験技術を理解しあい、感銘を得られる人的交流の場を設ける』

< 『光塾』の名前の由来 >

『光』...一般的に使われている顕微鏡は『光』を用いたものであることと、『光』る若者達が集まり、『光』る研究を生み、そしてこの塾自体が『光』り輝くことを目標とするため。

『塾』...これは「会」ではありません。学会のように完成された研究だけを発表・議論するのではなく、そこに至る苦労話・現時点での不安や迷いなども含め、ざっくばらんな議論を参加者全員で共有かつ自発的に行うものでありたいとの考えから、「会」ではなく『塾』と銘打つことにしました。

< 光塾塾員への道 >

- ・ イメージング技術に興味・期待を持つ者
- ・ 現在使っているイメージング技術に満足できず、新たな技術を必要としている者
- ・ 顕微鏡やイメージング技術が好きな者
- ・ 積極的に議論に参加できる者
- ・ 生体分子、生理現象に興味を持っている者
- ・ 人的交流を望んでいる者
- ・ 自分の持っている技術を惜しげもなく他人に教えることのできる者
- ・ 「世土無双（世界に二つとない研究）」を目指している者
- ・ 自分は若い！と思っている者

< 『光塾』のロゴ >

光塾によって得た、または深めた学術的・人的つながりが、イメージング技術の発展につながっていけばよいとの願いが込められている。

以上